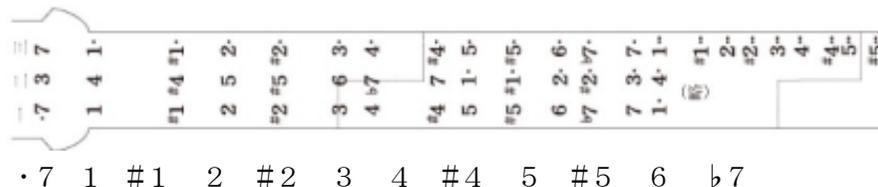


第3回

三味線のさわり はの巻  
演奏の基礎(譜面と調子)

唄と三味線に用いられる音は、普通音と中間音の十二半音です。



【音の合わせ方】  
まず基準となる音(7)を決め、調子笛で確認し、譜面に指示された調子にあわせます。

曲の途中で調子を変えることもあります。  
例えば「本調子」から「二上り」にするには、二の弦の音だけ「3」→「#4」へ素早く変えます。

三下り	二上り	本調子	調子
・7	・7	・7	一の弦
3	#4	3	二の弦
6	7	7	三の弦



携帯端末式調子笛

調子笛

本調子は『どびん やかん?!』  
三味線の音は洋楽のように基準となる音が確定していないので、調子をあわせるのが大変です。  
喜鶴社中では、  
本調子は「どびん やかん」  
二上りは「うどん カレー」  
三下りは「どびん カレー」 と合わせるとか合わせないとか…

第一部 長唄演奏

弥生演目 『越後獅子』  
ふきよせ 『鶴亀の楽』

杵屋 喜鶴源(きねやきかげん)

杵屋喜鶴アカデミー 寺子屋 第三回は『越後獅子』を  
新名取「杵屋喜鶴源」がご披露いたします。

長唄の『越後獅子』は、連獅子などの「毛を振る獅子物」  
ではなく、獅子頭をかぶって大道芸をする角兵衛獅子の  
歌舞伎演目(写真参照)で、今も大変人気があります。  
にぎやかで変化に富んだ曲をお楽しみください。

第二部 ぺんぺん寄席

漫談響演

三味線 Henry

端唄に小唄、琵琶に三線…自由闊達に織りなす邦楽ライ  
ブ。今回は琵琶を中心にお届けします。

杵屋喜鶴アカデミー 寺子屋

日時 二〇二六年三月七日(土)  
場所 文化のみち榎木館



# 長唄 越後獅子

文化八年(一八十一年)  
作詞：松井幸三  
作曲：九代目 杵屋六左衛門

浜唄									
調子：三下がり									
前弾き									
〱打つや太鼓の音も澄み渡り 角兵衛角兵衛と招かれて 居ながら見する石橋の 浮世を渡る風雅者 うたふも舞ふも囃すのも一人旅寝の草枕 おらが女房をほめるぢやないが 飯も炊いたり水仕事 麻燃るたびの楽しみを 独り笑みして来りける									
合方									
〱越路湯 お国名物は様々あれど 田舎訛の片言まじり しらうきになる言の葉を									
合方									
〱雁の便りに届けてほしや 小千谷縮の何処やらが 見え透く国の習ひにや									
合方									
〱縁を結べば兄やさん 兄ぢやないもの夫ぢやもの									
〱来るか来るかと 浜へ出て 見ればのほいの 浜の松風 音やまさるさ やつとかけの ほいの まつかとな 辛苦 甚句もおけさ節									
合方									
〱何たら 愚痴だえ 牡丹は持たねど 越後の獅子は									
〱己が姿を花と見て 庭に咲いたり咲かせたり そのおけさに異なること言はれね まりねまらず 待ち明かす 御座れ 話しませうぞ こん小松の蔭で 松の葉の様にこん細やかに 弾いて唄ふや獅子の曲 向ひ小山のしちく竹 いたふし揃へて きりを細かに 十七が 室の小口に 昼寝して 花の盛りを夢に見て候									
さらしの合方①									
〱見渡せば 見渡せば 西も東も花の顔 いづれ賑ふ 人の山人の山									
さらしの合方②									
〱打ち寄する打ち寄する 女波男波の絶え間なく 逆巻く水の面白や面白や									
さらしの合方③									
〱晒す細布手にくるくると 晒す細布手にくるくると いざや帰らん 己が住家へ									

越後獅子の合方のうち、さらしの合方①が一番長い合方です。  
暗譜も苦労しました。  
日本舞踊では、一本歯の下駄でさらしを振るクライマックスとなりませす。丁々発止の軽快感をお楽しみいただけたら幸いです。

角兵衛：獅子踊りなどを披露して町を回った大道芸人のこと。江戸では「角兵衛獅子(かくべえじし)」、上方では「越後獅子(えちごじし)」と呼ばれていました。  
もともとは現在の新潟県新潟市南区(旧・西蒲原郡月潟村)で生まれた郷土芸能です。そのため、長唄「越後獅子」の歌詞には新潟の地名や風俗がたくさん登場します。

小千谷縮(おぢやぢみ)：新潟県小千谷市周辺で生産される、苧麻(ラミー)を使用した国の重要無形文化財・ユネスコ無形文化遺産にも登録された麻織物

おけさ節：新潟の代表的な民謡  
越後獅子にはいろいろな地歌の引用が見られます。



地歌「越後獅子」と同じ歌詞  
越路湯く見透く国の習ひにや  
牡丹は持たねど越後の獅子は、庭に咲いたり咲かせたり  
弾いて唄ふや獅子の曲く花の盛りを夢みて候

地歌「晒」と同じ歌詞  
見渡せば見渡せば、いづれ賑わう人の  
いざや帰らん己が住み家へ

## アンケートのお願い



このQRコードを読み込んでアンケートにご協力いただくと幸いです。3分ほどで回答できます。

**越後獅子とは**  
文化八年三月、三世中村歌右衛門が、好敵手の三世坂東三津三郎『七変化』に対抗して、同じく『七変化』の詩・曲・振り付けをわずか3日間で仕上げ4日目には舞台上で上演し、見事に人気を挽回したという逸話を持つ七変化の中の一曲です。  
作曲者の九代目杵屋六左衛門は、『七変化』の7曲をわずか一晩で完成させたため、地歌を始め上方の端唄などさまざまな曲の要素が取り入れられています。

**今回の聴かせどころ**  
杵屋喜鶴源(きかげん)は、7～8年にわたり日本舞踊を学んでいます。日本舞踊をより深く理解するため、約1年前から三味線をはじめました。今回演奏する曲には「合方(あいかた)」がいくつもあり、二挺の三味線がそれぞれ異なる「手(メロディ)」を奏でます。掛け合いによって生まれる軽快感をお楽しみください。

**長唄ヒットチャートNO.1?**  
越後獅子は、長唄の譜面の売上NO.1の曲です。皆様ももしかしたら聴いたり弾いたりしたことがあるかもしれません。ちなみにNO.2は「岸の柳」です。  
6月の寺子屋[6/14(日)]で演奏予定です。